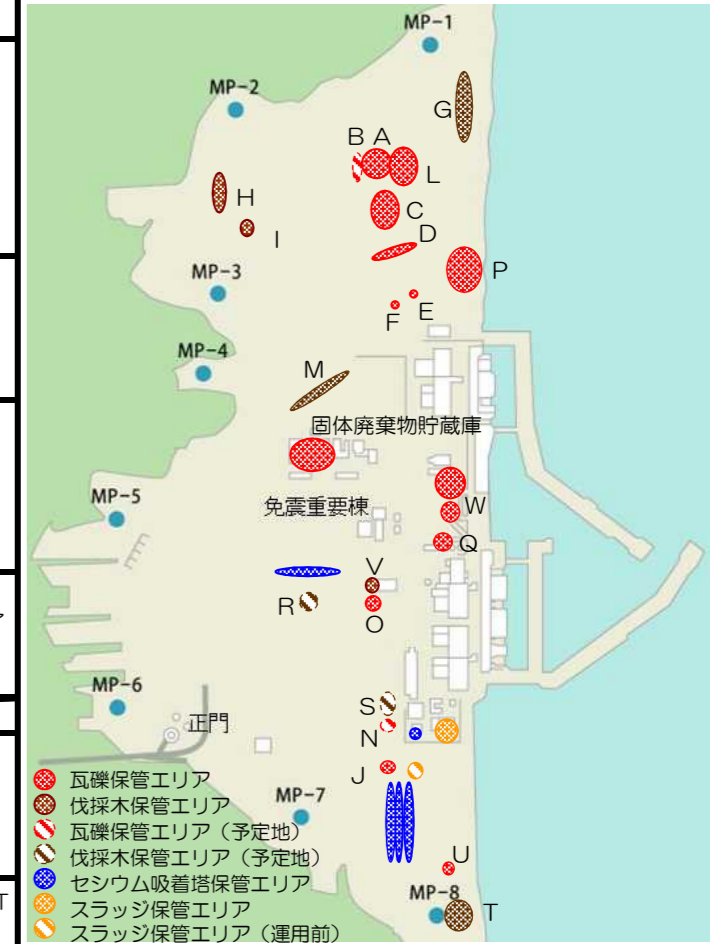


ガレキ・伐採木の管理状況(2015.3.31時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界空間線量率(mSv/h)	保管量 ^{※1}	前回報告比 ^{※2} (2015.2.28)	変動 ^{※3} 理由	エリア占有率	保管量/保管容量(割合)	トピックス	
屋外集積 (0.1mSv/h以下)	C	屋外集積	0.01未満	55,600 m ³	+2,900 m ³	①②③④	98%	97900 / 158100 (62%)	<ul style="list-style-type: none"> 主なガレキは、工事で発生した廃材。 エリアP1造成完了、運用準備開始(2014年10月24日) 瓦礫受入開始(2015年1月19日) 	
	F	屋外集積	0.01	4,100 m ³	+600 m ³	⑤	55%			
	J	屋外集積	0.03	4,700 m ³	0 m ³	—	98%			
	O	屋外集積	0.02	26,200 m ³	0 m ³	—	95%			
	P	屋外集積	0.01未満	6,600 m ³	+4,400 m ³	③④	11%			
	U	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	100%			
シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m ³	0 m ³	—	88%	28000 / 48300 (58%)	<ul style="list-style-type: none"> 主なガレキは、工事で発生した廃材、建屋内に設置していた撤去機器、水処理で使用したホース類及び廃車両。 今後発生量の増加が見込まれるため、廃棄物発生量の抑制や既保管物の減容処理を進めていく。 エリアP2造成完了、運用準備開始(2016年10月24日) 	
	E	シート養生	0.02	4,400 m ³	+100 m ³	③	28%			
	P	シート養生	0.01未満	0 m ³	0 m ³	—	0%			
	W	シート養生	0.03	21,000 m ³	+400 m ³	③⑤	72%			
覆土式一時保管施設、仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	8,000 m ³	0 m ³	—	100%	17600 / 23700 (74%)	<ul style="list-style-type: none"> 主なガレキは、原子炉建屋上部等で撤去されたガレキ。 1号機ガレキ撤去に向けて、覆土式一時保管施設3,4槽設置(8,000m³)の安全協定に基づく事前了解(H26年8月12日)。 エリアE2造成完了、運用準備開始(2014年10月24日) 保管容器^{※4}受入開始(2014年12月9日) 覆土式一時保管施設3槽設置工事開始(2014年11月10日) 	
	A	仮設保管設備	0.32	3,300 m ³	+100 m ³	⑥	46%			
	E	容器	0.01未満	100未満 m ³	微増 m ³	—	2%			
	F	容器	0.01	600 m ³	0 m ³	—	99%			
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器	0.03	5,400 m ³	+200 m ³	⑥	45%	5400 / 12000 (45%)	<ul style="list-style-type: none"> 主なガレキは、原子炉建屋上部等で撤去された高線量ガレキ。 第9棟設置(ドラム缶 約11万本)に向けて安全協定に基づく事前了解(2014年8月12日)。 第9棟設置に伴う実施計画変更認可申請(2014年8月13日) 	
	Q	容器	0.12	5,700 m ³	0 m ³	—	93%			
合計(ガレキ)				149,100 m ³	+8,900 m ³	—	62%			
伐採木 (幹・根・枝・葉)	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01	14,600 m ³	-700 m ³	⑦	82%	63200 / 88200 (72%)	<ul style="list-style-type: none"> 主にエリアP1造成により伐採した幹・根を受入。 その他工事により発生した幹・根を随時受入中。
		I	屋外集積	0.01	10,500 m ³	0 m ³	—	100%		
		M	屋外集積	0.01	38,100 m ³	+500 m ³	⑧	85%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	7,300 m ³	0 m ³	—	27%	17400 / 50100 (35%)	<ul style="list-style-type: none"> 当面受入を計画していた枝葉については、チップ化した後、エリアTの伐採木一時保管槽へ受入完了。
		T	伐採木一時保管槽	0.01	10,100 m ³	0 m ³	—	44%		
合計(伐採木)				80,500 m ³	-200 m ³	—	58%			



※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※3 主な変動理由：①タンク設置関連工事 ②多核種除去設備増設関連工事 ③フェーシング関連工事 ④陸側遮水壁設置関連工事 ⑤焼却対象物の集約作業 ⑥1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事
 ⑦エリア整理 ⑧固体廃棄物貯蔵庫9棟設置工事 等
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2015.4.23時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比(2015.3.19)	保管量/保管容量(割合)	トピックス	
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	614 本	+24 本	2299 / 6055 (38%)	<ul style="list-style-type: none"> 多核種除去設備の高性能容器を保管する使用済吸着塔一時保管施設(第三施設)全容量(容量3,456本)の使用前検査終了(2015年4月13日, 1,536本増) 使用済吸着塔一時保管施設(第一施設)の吸着塔保管ラック復旧(50本増) 	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	124 本	+3 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	925 基			+92 基
			増設	469 基			+91 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	38 本			+14 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	3 塔			0 塔
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		126 本	+31 本				
廃スラッジ貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	<ul style="list-style-type: none"> 除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。 		
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,203 m ³	+12 m ³	9203 / 20000 (46%)			



ガレキ・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液の保管量推移

